

# 美瑛中心市街地区 都市再生整備計画 事後評価

【北海道上川郡美瑛町】

## 美瑛町の中心市街地区が抱える課題

美瑛町には年間160万人を超える観光客が訪れていますが、美しい農村景観を目的とした郊外農村部の周遊がメインとなっていました。この流れに中心市街地を加えるための取り組みとして、H17年度に宿泊交流施設「ふれあい館ラヴニール」、H18年度に「道の駅びえい-丘のくら」等の集客施設を市街地に整備することによって中心市街地の活性化に取り組み、一定の成果を上げています。

しかし、観光客の多くは良質な街並みが整備された本通り地区周辺に留まり、都市機能が不十分な丸山通り地区への周遊が進まず、滞在時間も伸びないことで効果的な活性化が図られていない現状があり、これが喫緊の課題となっています。



## 美瑛中心市街地区のまちづくりの目標

### 中心市街地の課題

- 丸山通り地区の都市機能（休憩スペース、交流施設など）が不十分で観光客の周遊が進まない
- 中心市街地への集客を可能とする施設が整備されていない
- 町民や観光客の活動領域を広げる多様性のある拠点が整備されていない



大目標：美しい丘のまちで次代においても安心して暮らしができる活気のある市街地を再生する

### 小目標

丸山通り地区への誘客を促進し、交流人口の増加による中心市街地全体の活性化を図るための良質な空間を整備する。

中心市街地への誘客を可能とする施設整備を推進し、地域コミュニティに負荷の少ない環境を整備する。

新たなスタイルの拠点施設を整備し、本町の魅力発信と地域交流の推進を図る。

### 目標を定量化するための指標

#### 指標 1：丸山通りの歩行者数（人/日）

従前値（H24）  
524人/日



目標値（H30）  
580人/日

#### 指標 2：中心市街地への入込者数（人/年）

従前値（H24）  
387,294人/年



目標値（H30）  
426,000人/年

#### 指標 3：地域交流センターの利用者数（人/年）

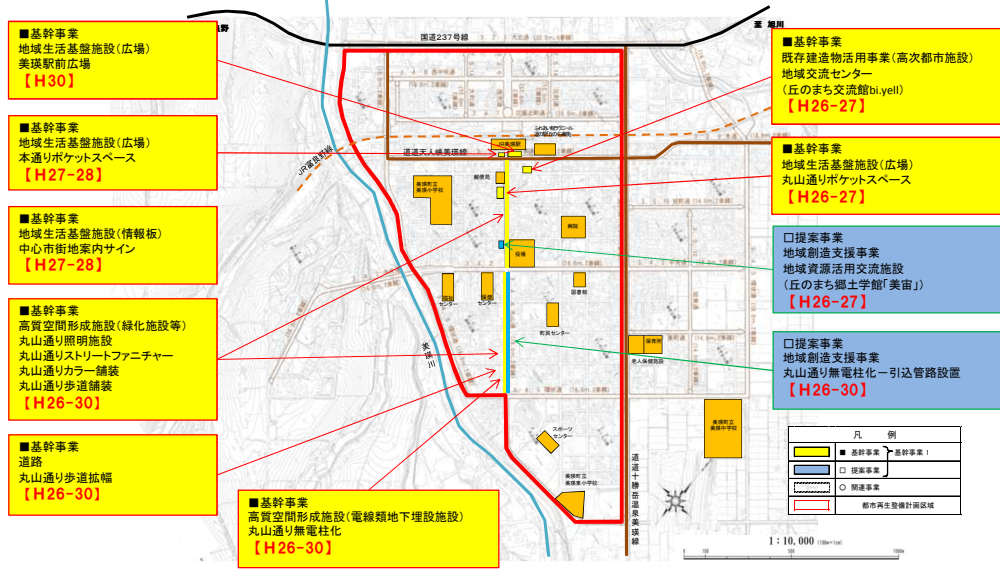
従前値（H24）  
12,761人/年



目標値（H30）  
16,500人/年

## 都市再生整備計画に基づいて実施した事業

平成26年～平成30年度の5年間で、「丸山通り線」「地域交流センター（bi.yell）」「本通り・丸山通りポケットスペース」など13事業の整備を実施しました。



都市再生整備計画に基づいて実施した事業（整備写真）

丸山通り線

整備前



整備後



美瑛駅前広場



都市再生整備計画に基づいて実施した事業（整備写真）

丸山通りポケットスペース

整備前



整備後



本通りポケットスペース



## 都市再生整備計画に基づいて実施した事業（整備写真）

### 中心市街地案内サイン



整備後



## 都市再生整備計画に基づいて実施した事業（整備写真）

### 地域交流センター（丘のまち交流館bi.yell）

整備前



整備後



## 都市再生整備計画に基づいて実施した事業（整備写真）



## 指標の達成状況

本計画では、既存ストックを活用した拠点施設等を新たに設置し、それらを結ぶ動線となる「丸山通り」を良質な空間とすることで、交流人口と滞在時間の増加がもたらす相乗効果を定量化するための指標を設定。

| 目標を定量的に評価するための指標  | 従前値                       | 目標値                       | 評価値                       | 達成状況                  |
|---|---------------------------|---------------------------|---------------------------|-----------------------|
| <b>指標 1：丸山通りの歩行者数（人/日）</b><br>定義：交通量調査による丸山通りの日当り歩行者数<br>目標との関連性：丸山通りの良質な空間形成及び拠点施設の整備によって、本通地区からの誘客による交流人口及び滞在時間の増加を歩行者数の伸び率から検証する。  | 524<br>(人/日)<br>(H24)     | 580<br>(人/日)<br>(H30)     | 597<br>(人/日)<br>(H30)     | ○<br>H30.10.16<br>実測値 |
| <b>指標 2：中心市街地への入込数（人/年）</b><br>定義：市街地拠点施設の年間利用者数<br>目標との関連性：中心市街地の整備により創出される新たな交流人口を市街地拠点施設（道の駅丘のくら・ラヴニール・四季の情報館）の利用者数から検証する。         | 387,294<br>(人/年)<br>(H24) | 426,000<br>(人/年)<br>(H30) | 455,602<br>(人/年)<br>(H30) | ○<br>一部推測値による達成見込み    |
| <b>指標 3：地域交流センターの利用者数（人/年）</b><br>定義：商店街コミュニティ施設の年間利用者数<br>目標との関連性：既存地域交流施設等の利用者数（町民センター+子育て支援センター）から算出する従前値に対し、新たな施設が生みだす交流人口を指標とする。 | 12,761<br>(人/年)<br>(H24)  | 16,500<br>(人/年)<br>(H30)  | 127,530<br>(人/年)<br>(H30) | ○<br>一部推測値による達成見込み    |

## 計画当初（H25）からの課題の変化について

| 区分        | 事業実施前の課題   | 事業実施により達成されたこと   | 解決すべき残された課題   |
|-----------|--|--|---|
| 丸山通り地区    | <ul style="list-style-type: none"> <li>■丸山通り地区の都市機能（休憩スペース、交流施設など）が不十分。</li> <li>□良質な街並みが整備されていないため、本通地区からの周遊が進まない。</li> <li>□歩きやすい歩道空間が整備されていない。</li> </ul>                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>●従前の歩行者数に比べて、増加傾向にあり丸山通り地区への周遊が促進されている。</li> <li>○美瑛駅から丸山公園までの約1kmの良質な街並み空間が整備され、本通り地区からの周遊が進んでいる。</li> <li>○切下げによる波打ちがなく、歩きやすい歩道空間が整備された。</li> <li>○丸山通り沿道に飲食店2店舗が新規開店した。</li> <li>○既存飲食店のうち3店舗が営業時間を拡大した（昼食時営業開始）。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>▼増加した観光客の滞在時間を活かし、購買力の向上に向けた更なる取り組みが必要。</li> <li>▽観光客、交流人口の増加に伴い特にアジア圏を中心とした外国人観光客も増加していることから、インバウンド対策が求められている。（特にハイシーズンにおける飲食業受入れ体制の強化）</li> </ul>                |
| 中心市街地全体   | <ul style="list-style-type: none"> <li>■中心市街地への集客を可能とする施設が未整備</li> <li>□周遊する観光客が休憩・交流できる施設が少ない。</li> <li>□市街地の各施設を案内するサインの更なる整備が必要。</li> <li>□美瑛駅から丸山通り地区へのアクセスが不十分。</li> </ul>      | <ul style="list-style-type: none"> <li>●観光客等を受け入れる施設の整備が進み、入込者数が増加している。</li> <li>○2カ所のポケットスペースを整備し、周遊する観光客等の滞在空間を確保した。</li> <li>○市街地の主要交差点に多言語化案内サインを追加、更新した。</li> <li>○駅前の幹線であり、商店街を沿道に抱える丸山通り線を高質な道路空間として整備し、観光客等の周遊性が拡大された。</li> </ul>                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>▼丸山通り線への周遊促進に伴い、商店街を訪れる人への受入れ施設の不足が懸念される。</li> <li>▽飲食店の店舗数増加や営業時間の拡大（昼食時も営業）に伴い、商店街を沿道に抱える道路空間として、駐車場不足が懸念される。特にバスなどの大型車が駅前付近に滞留しており、交通の妨げとなることが懸念される。</li> </ul> |
| 交流拠点となる施設 | <ul style="list-style-type: none"> <li>■町民や観光客の活動領域を広げる多様性のある交流拠点が未整備</li> <li>□町民や観光客が気軽に交流できる施設が未整備</li> <li>□美瑛町の文化や地域資源の情報を発信する施設が未整備。</li> <li>□活用されていない既存施設が市街地に点在。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●新たなスタイルの拠点施設を整備し、本町の魅力発信と地域交流が推進されている。</li> <li>○町民や観光客による地域交流が丘のまち交流館「bi,yell」の整備によって推進されている。</li> <li>○丘のまち郷土学館「美宙」が整備され、地域の文化・資源の情報発信が可能となった。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>▼引き続き利用者に親しまれる施設の在り方を検討し、更なる交流が図られるよう取り組みを継続していく。</li> <li>▽整備された施設は現段階では有効に活用されている。</li> <li>▽今後も継続して多くの方に利用されるよう町内外への情報発信や新たな取り組みを模索していく。</li> </ul>             |

## 今後のまちづくり方策について

本計画で掲げた目標について、設定した指標については一部推測値となっているが達成していることを確認できた。中心市街地への入込数及び地域交流センターの利用者数の推測値については、H31.3月の実績値が確定次第、フォローアップを行い達成状況の最終確認を行います。

また、本事業の実施により残された及び新たに確認された課題については、引き続き関係機関等と連携しながら、事業の検討や実施を進めていきます。

### ○観光、交流人口促進のための環境づくり

・良質な街並み空間や拠点施設等を整備したことで、指標の目標値は達成しているが、事業完了後も継続して多くの方に親まれ、各種イベントの実施や多様なツールを用いた情報発信など、利用される仕掛けを模索していく。

### ○賑わいづくりの核となる市街地商店街の活性化

・美瑛の玄関口である美瑛駅周辺の商店街の活性化のため、関係機関と連携し観光客を中心とした受入れ体制及び情報発信を強化していく。

・アジア圏を中心とした外国人観光客の増加に対応するため、インバウンド対策を強化する取り組みを模索していく。

### ○安心、安全な環境整備

・道路空間や周辺の施設整備に伴い、丸山通り線への周遊が促進された。また、飲食店の店舗数の増加や営業時間の拡大等に伴い、今後も多くの利用が期待される。一方で、商店街を抱える道路空間として、駐車場不足が懸念されるため、空き地等を活用した公共駐車場整備等を計画していく。

・市街地を中心として、通学路等の歩道整備、修繕を計画していく。